

陸奥湾のナマコを増やすための取り組み

磯根資源部 技師 松尾みどり

冬の味覚ナマコ（マナマコ）は、県内では正月料理として親しまれ、青森市の七子八珍には卵巣と身が選ばれています。一方、中国では日本産のナマコが特に珍重され、藩政時代から乾燥加工品（いりこ）が「俵もの」として輸出されてきましたが、中国の近年の目覚ましい経済発展に支えられ、需要が拡大し価格が高騰しています。これに伴い、県内のナマコ漁獲量も急増しましたが、一方で乱獲による資源の減少が心配です。そこで、当所では、ナマコ生産の安定を目的に、



図1 調査した貝殻敷設場所

（独）水産総合研究センター等とともに、本年度から3か年の予定で農林水産省の公募研究「先端技術を活用した農林水産研究高度化事業」に取り組むことになりました。調査はまだ始まったばかりですが、海底に敷設したホタテガイ貝殻のナマコ生息状況を調べた結果、興味深いことが分かりましたので、ご報告します。

ホタテ貝殻敷設場所におけるナマコの生息状況

昨年5月に当所試験船「なつどまり」の船上から、1トンの砂が入る砂袋2つ分、およそ800kgのホタテ



図2 調査の様子

ガイ貝殻を水深5mの泥質の海底に落下させ、敷設しました。今年8月に潜水して調べたところ、貝殻は1年以上を経ても飛び散ることなく、約11㎡の広さに高さ30cmの小山として観察されました。この貝殻には今年の春に生まれた稚ナマ

コが多くみられたので、2日間かけてダイバーに貝殻を1枚1枚めくって、稚ナマコが居た位置と敷設した貝殻表面からの深さを記録してもらいました。

この調査の結果、敷設した貝殻の小山から、合わせて176個体のナマコが採取されました。ナマコは、体重300g、体長20cmの大型なものもありましたが、全体の71%（142個体）が、今年生まれたばかりの稚ナマ

コと考えられました。また、ナマコは、敷設した貝殻の表面に生息していたのは全体の4.7%（8個体）に過ぎず、9割以上が貝殻に潜るようにして生息していたことも分かりました。なんと、貝殻表面から20cmの深さまで潜っていた体重30gのナマコも採取されました。特に、稚ナマコでは表面に露出していたのは1個体しかなく、残りは表面から平均8cmの深さで貝殻と貝殻の隙間に生息していました。

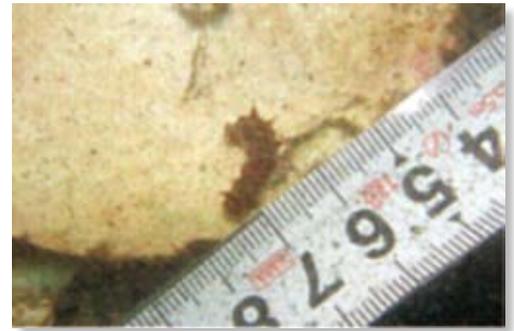


図3 見つかった稚ナマコ

ナマコは、フサギンボ、ウマヅラハギなどの魚類、カニやヒトデなどに食害されると報告されています。特に稚ナマコは、小さくて身が柔らかいため、食害を受けやすいと考えられます。稚ナマコにとっては、貝殻の隙間のような狭い場所は、害敵から身を守ることができる、居心地のよい住み場所と思われる。また、周辺の泥場には稚ナマコは認められなかったことから、この貝殻敷設場で見られた稚ナマコは、貝殻上で発生したものともみなせました。

一方、これまでの調査では、貝殻にはナマコの餌となる珪藻や海藻が着生・繁殖する様子が見られました。貝殻を敷設することで、ナマコにとって住み場、発生場と併せて餌場も造成できるように思われます。なお、ナマコの餌については、現在、詳しく調査しておりますので、結果が出ましたら改めて報告いたします。

このような調査を通じて、ナマコの増殖に適した漁場を造成する手法を開発したいと考えています。

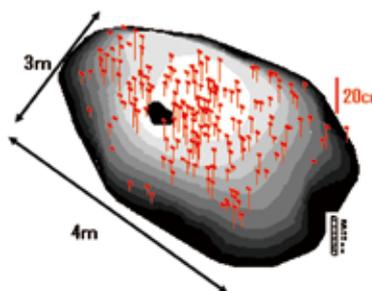


図4 稚ナマコの生息位置
■：上から見たナマコの位置
|：貝殻表面からの深さ